

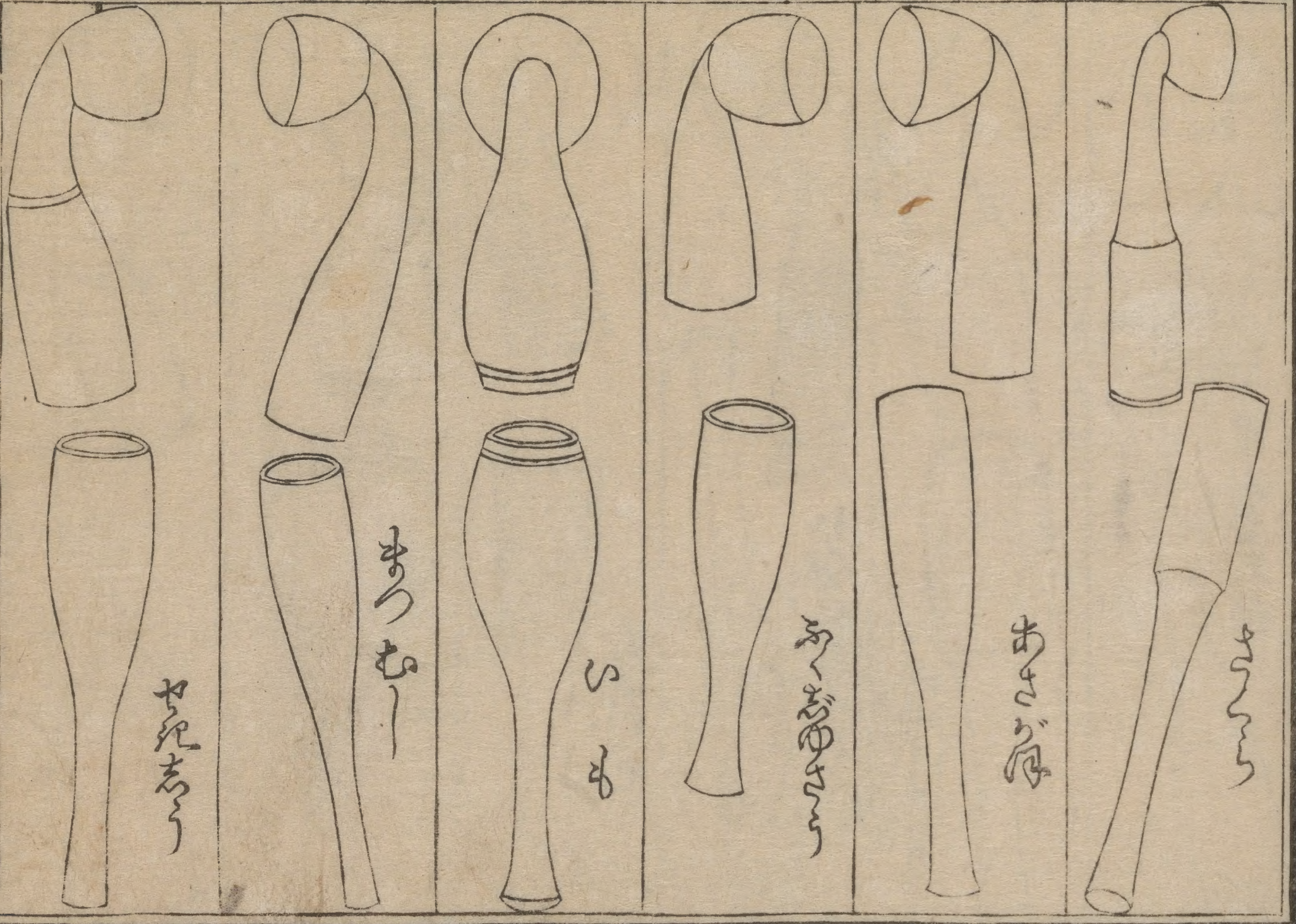
今様集

全

きんさむの部

180





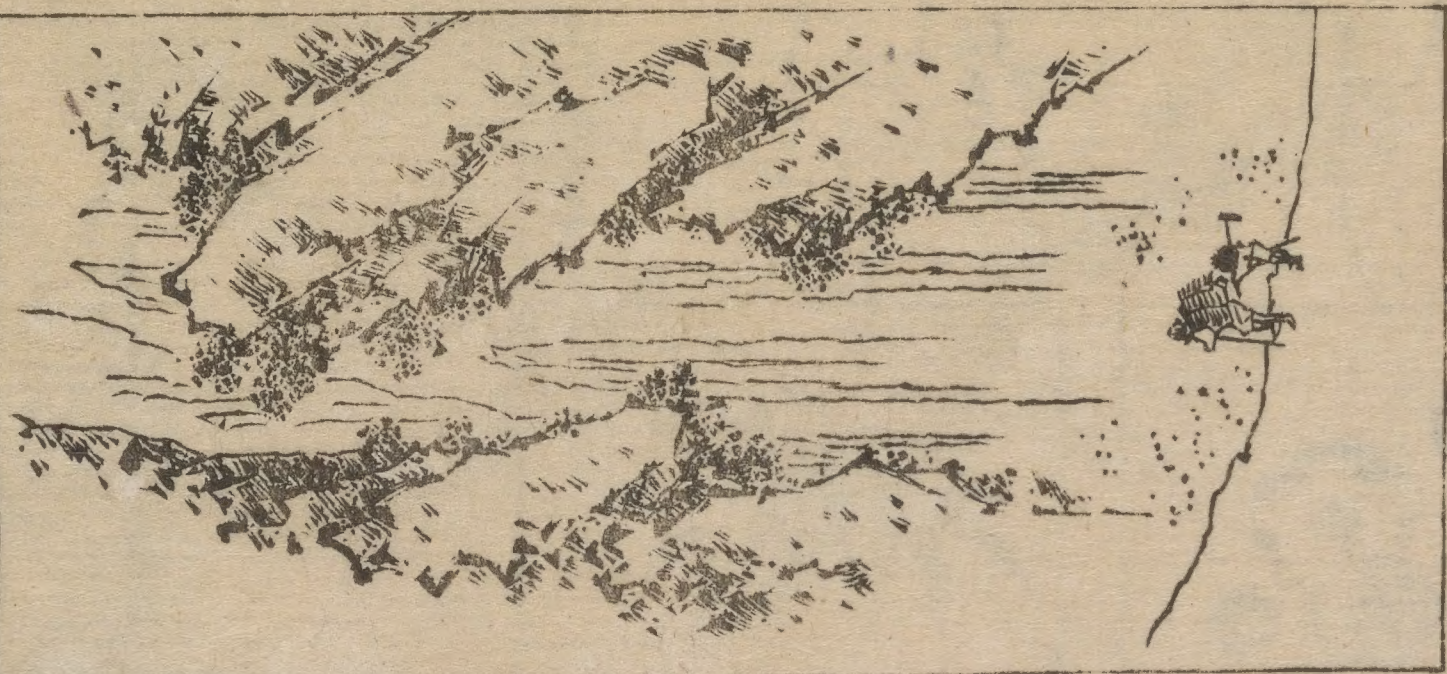








のどろろのりやうと  
あるべー







日のくさき

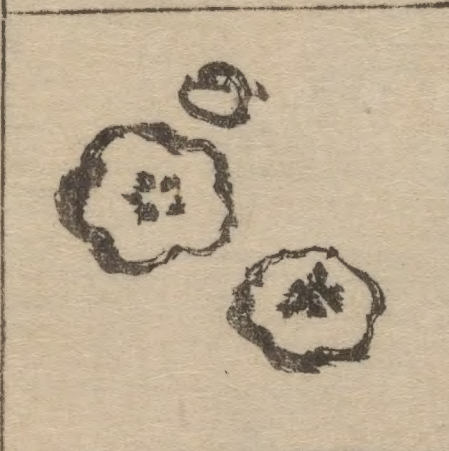
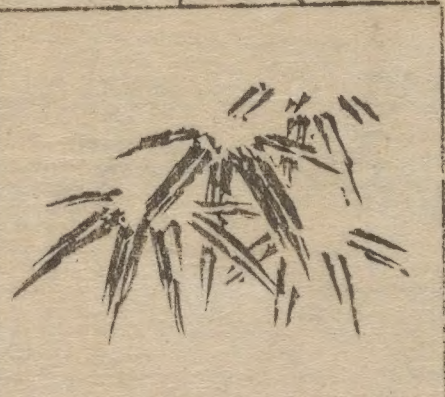
何と

中より

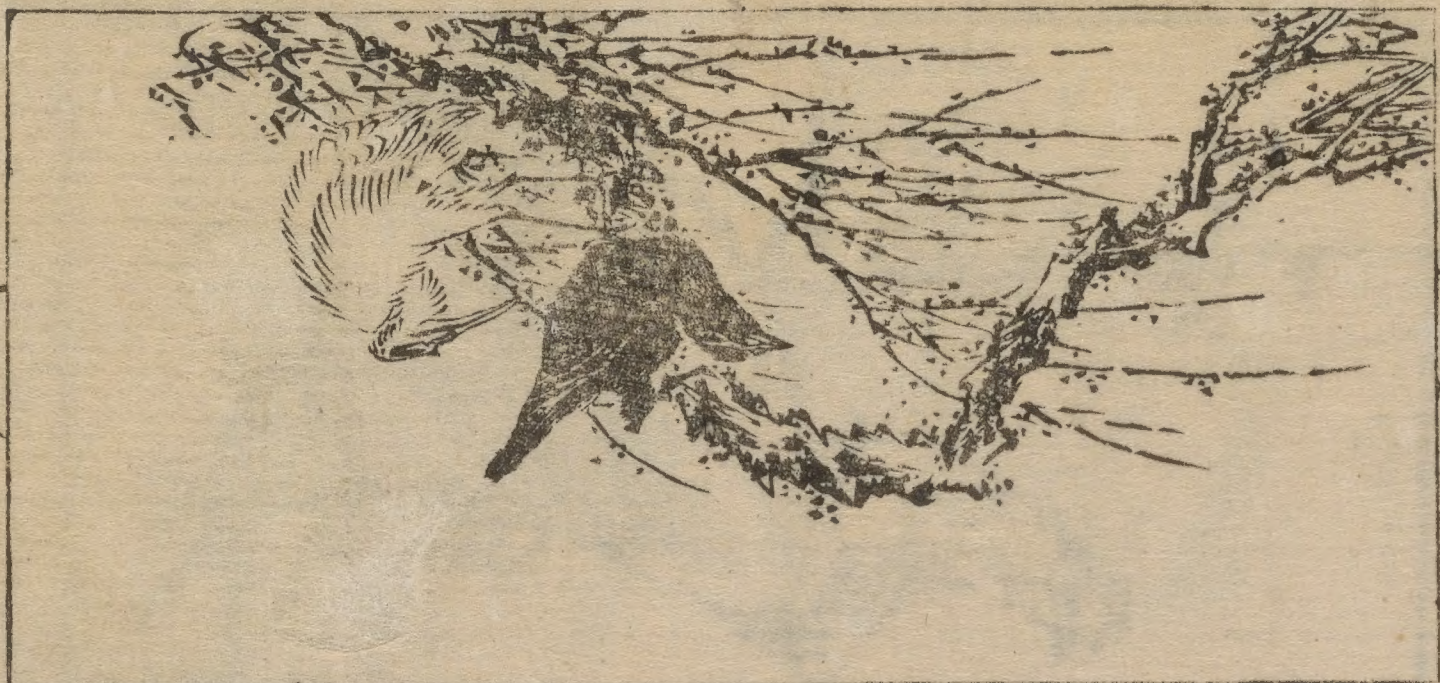
つくと

をへて

は

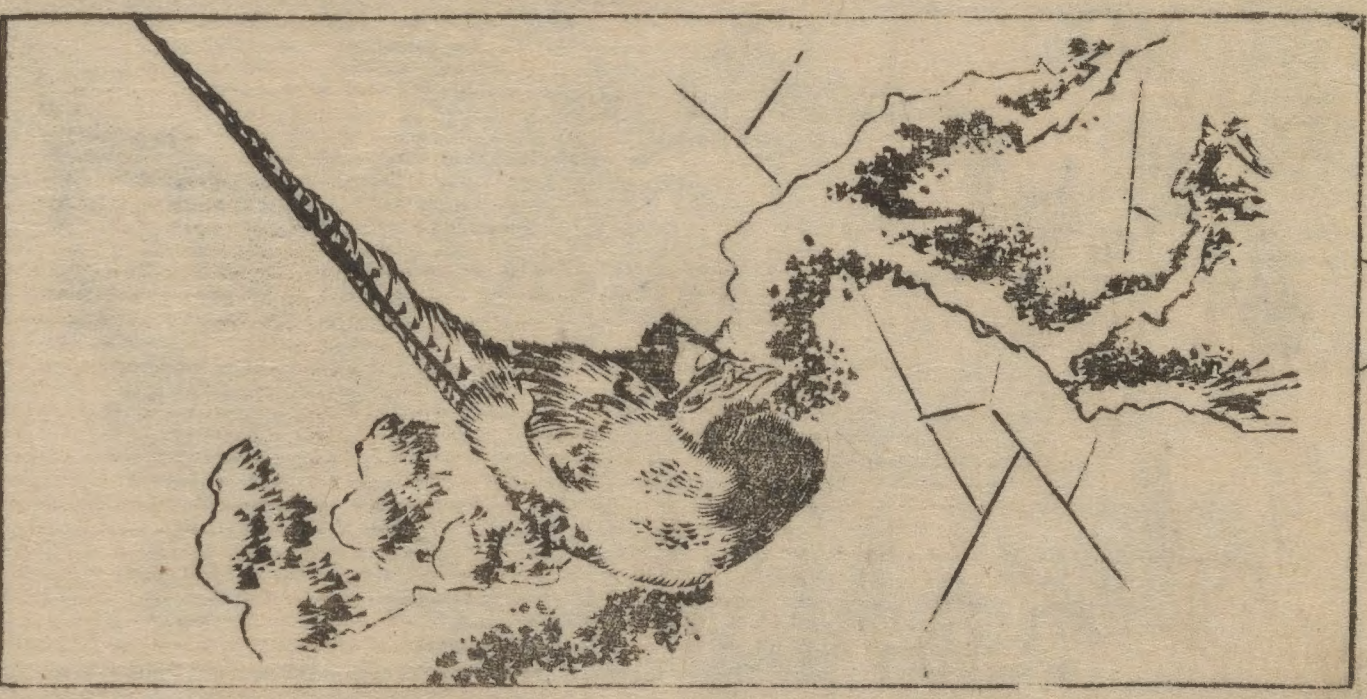


のくさき  
あたらふ





鶏 鶏之部



男 男之部

男 男之部

男 男之部

男 男之部





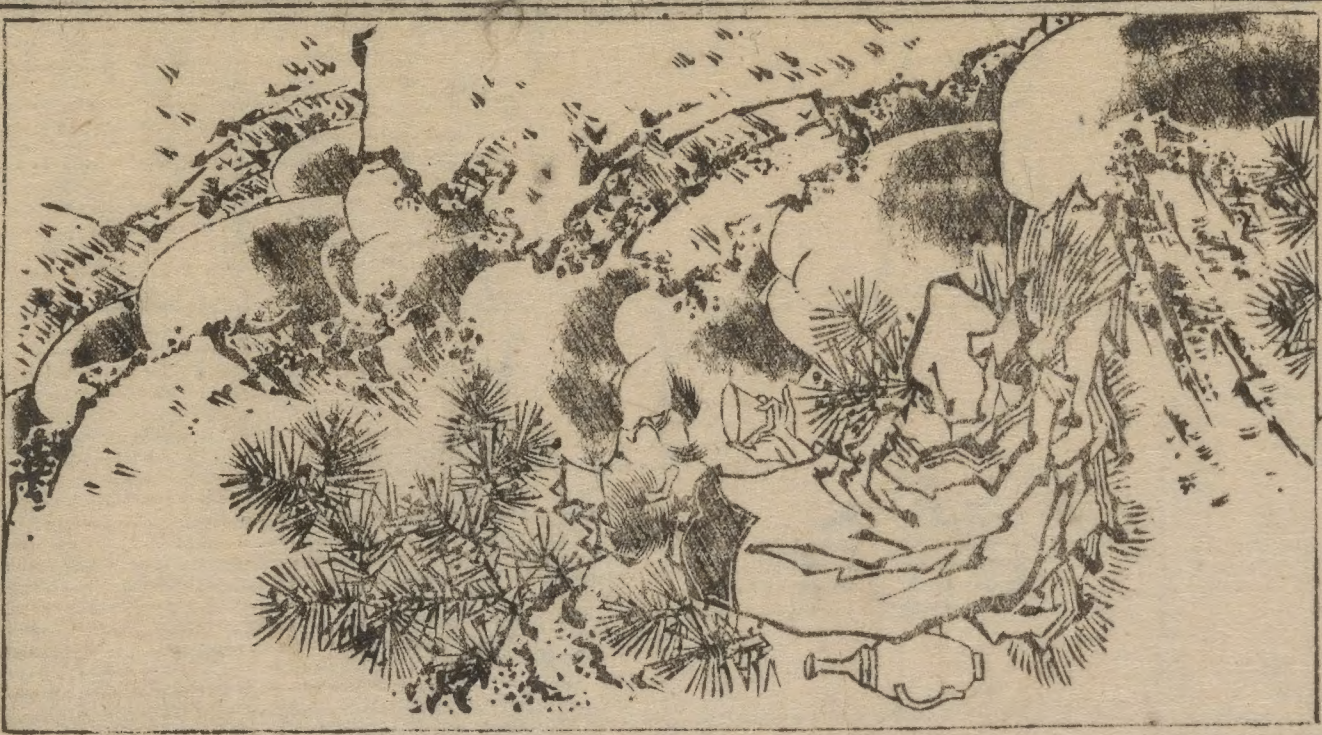


ツグミのこ



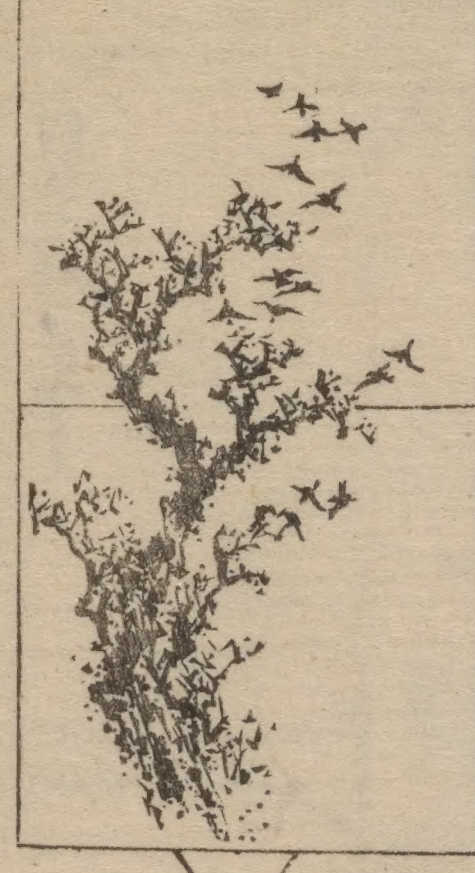
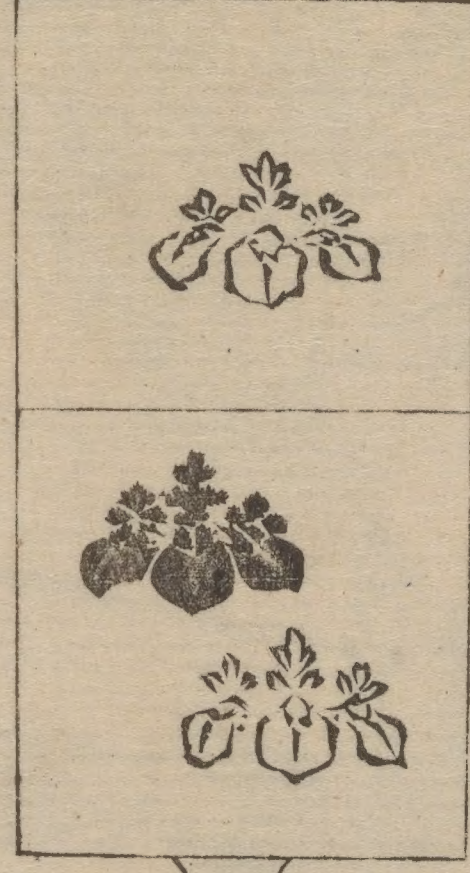
ゆきふり  
うきふり  
あざし

口のぐれりやう

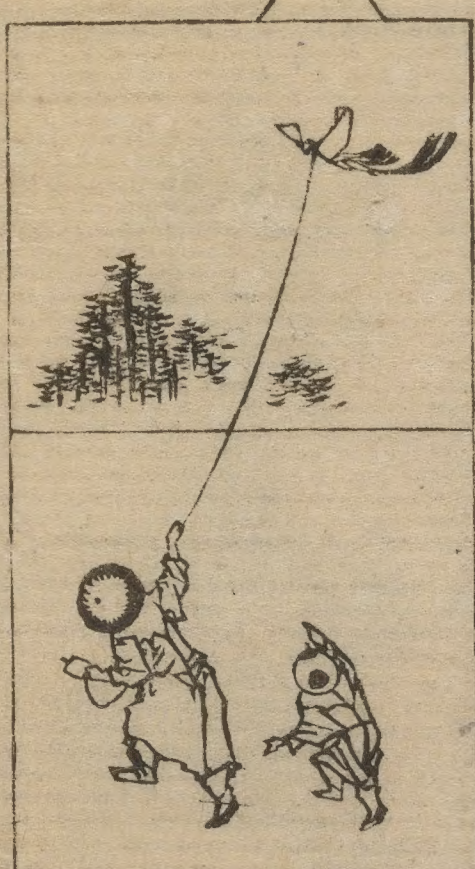
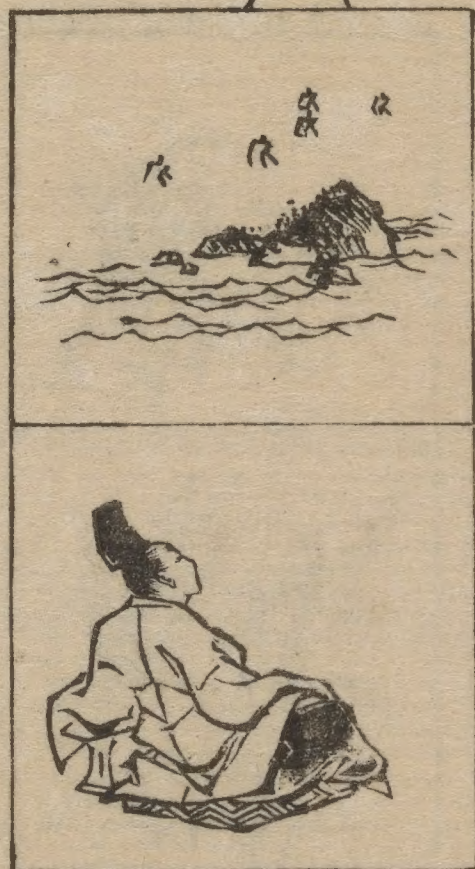
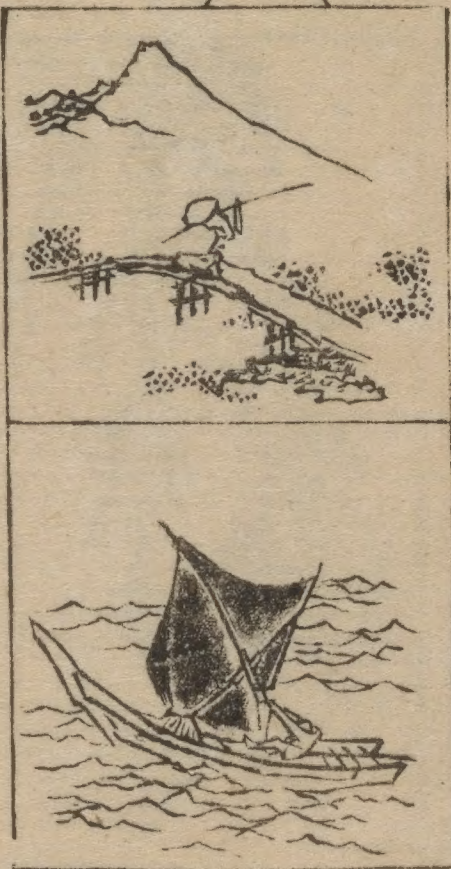




けつてん  
おん  
まの  
りやう



ロ  
ド  
く





まふ  
口



口





月



あう山乃  
まうれ  
こまひふ  
かくろひて  
おしんもあ  
らひのさうあ

月





歸德府志



大正



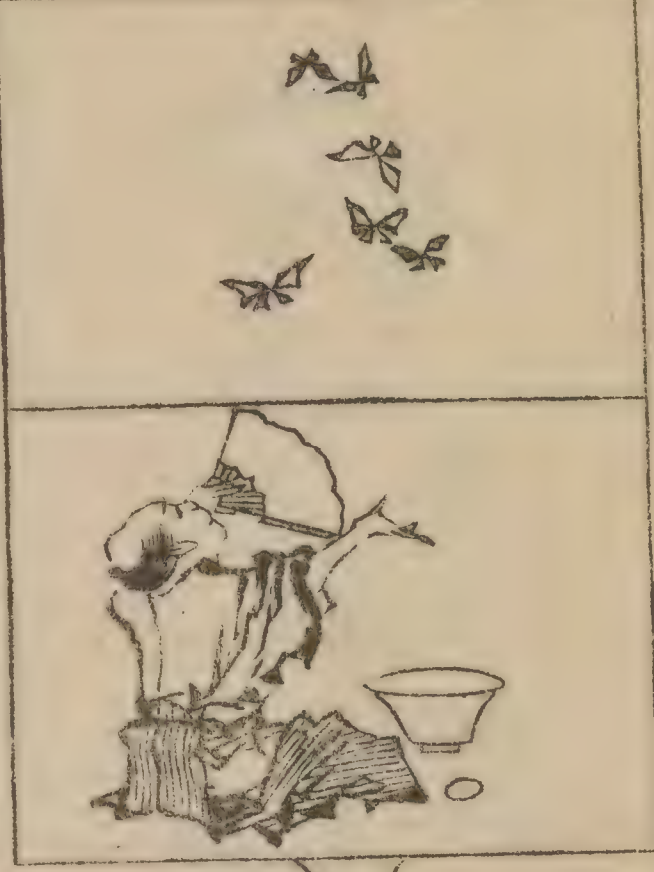
節  
隆  
唯  
少  
隆  
之  
耶  
冊



17

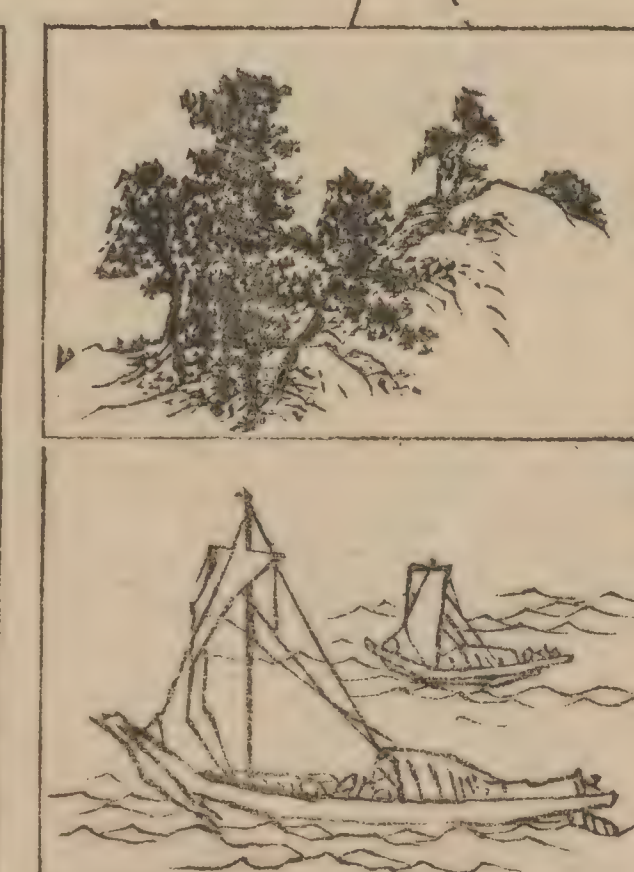
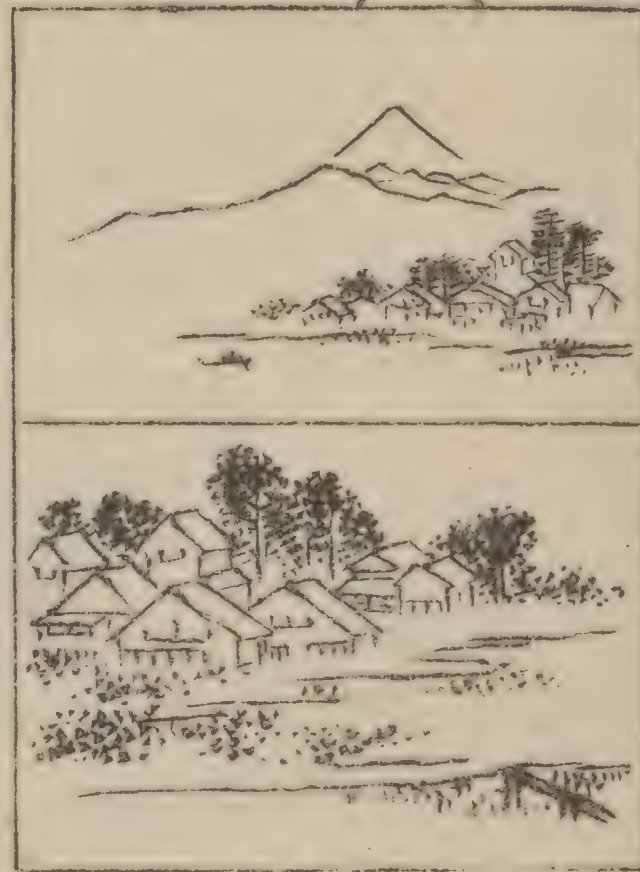


17



音









こまより大なるありまみ  
ありなりや大なるありまみ







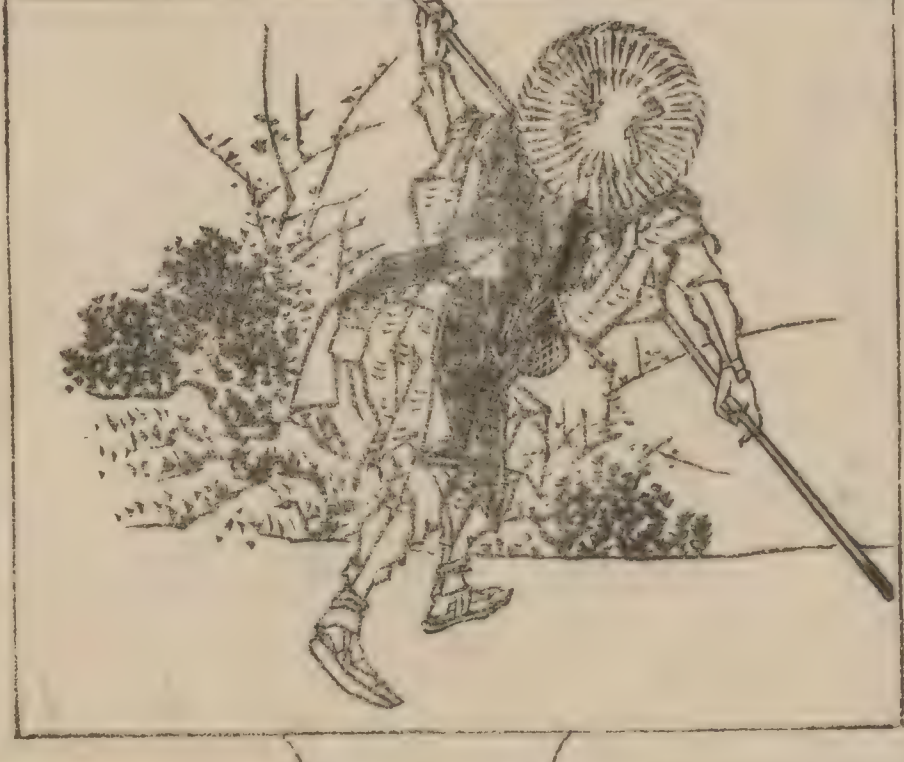
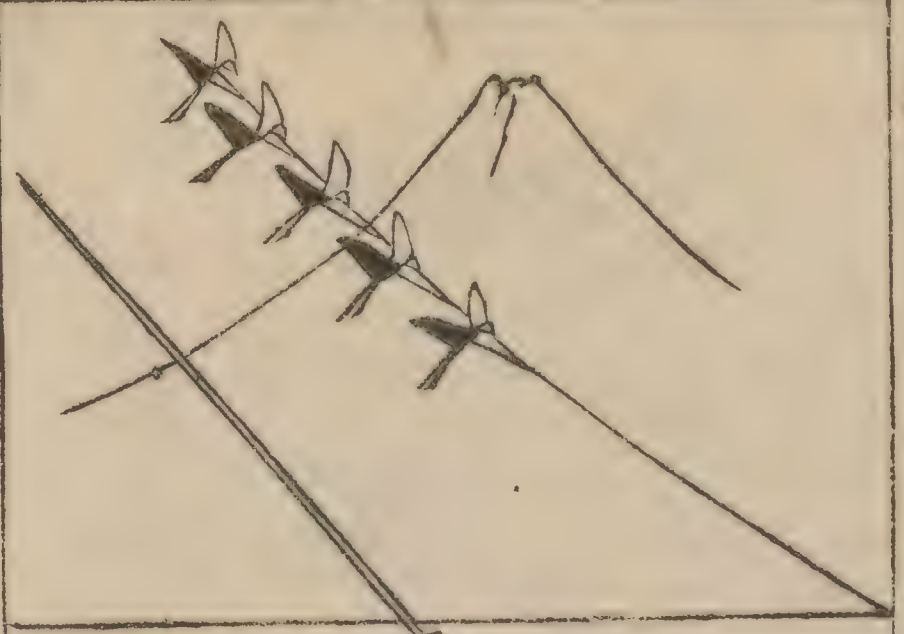
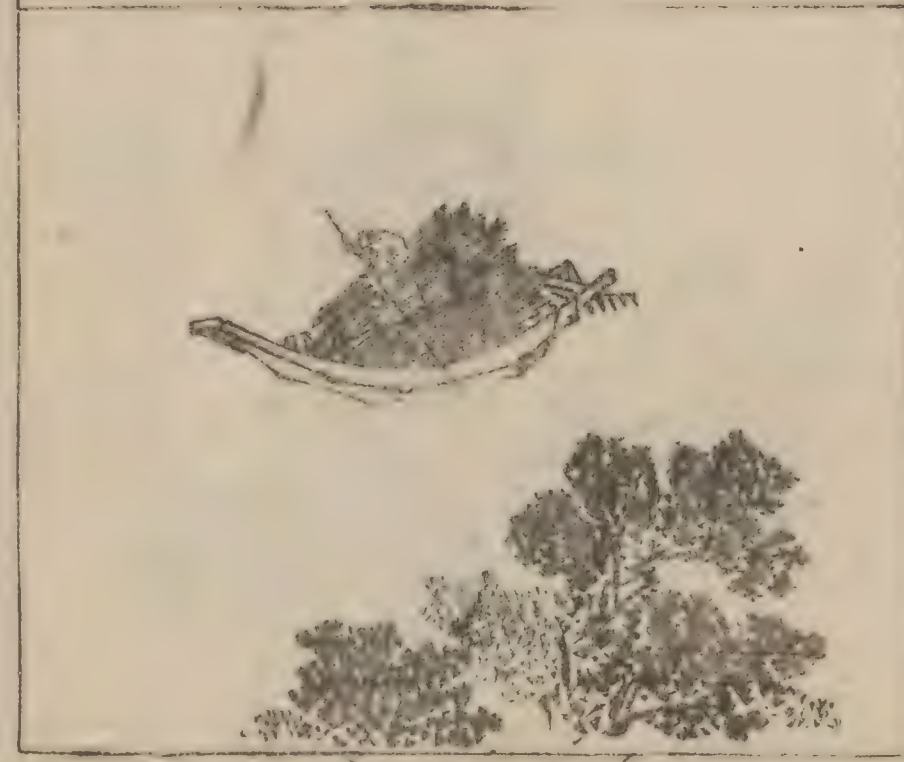
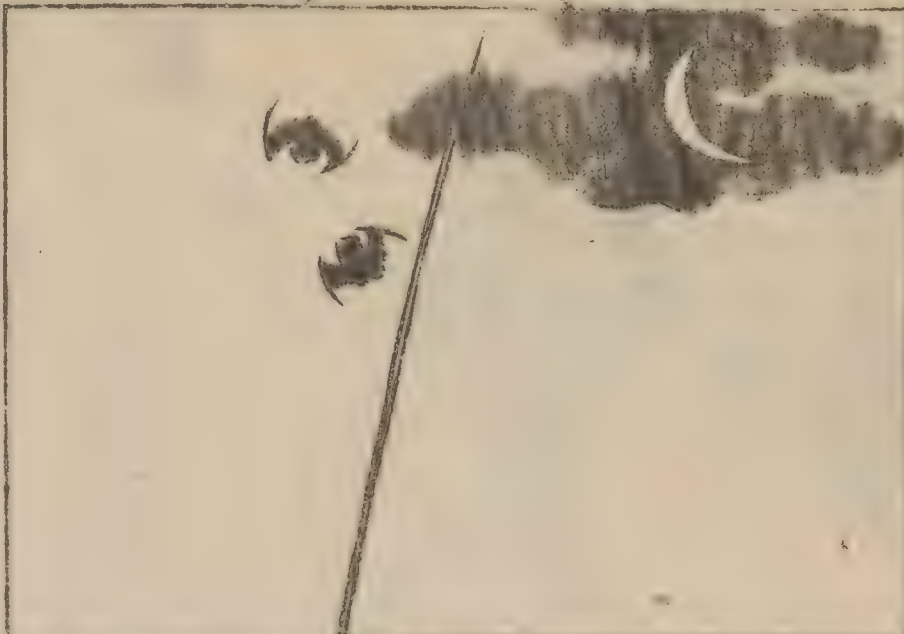


柳絲飛絮

柳絲飛絮  
柳絲飛絮  
柳絲飛絮  
柳絲飛絮

柳絲飛絮  
柳絲飛絮  
柳絲飛絮  
柳絲飛絮

廿四

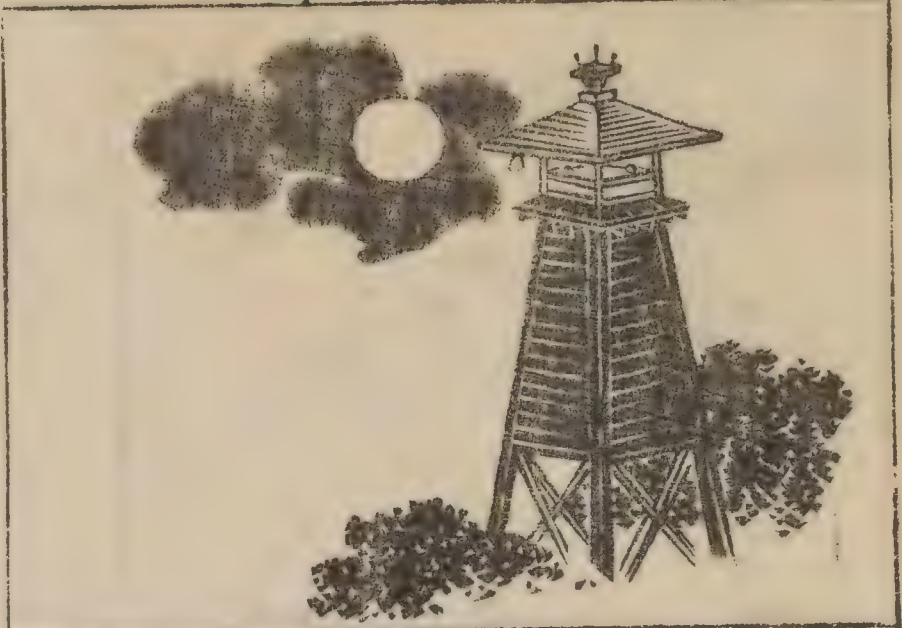
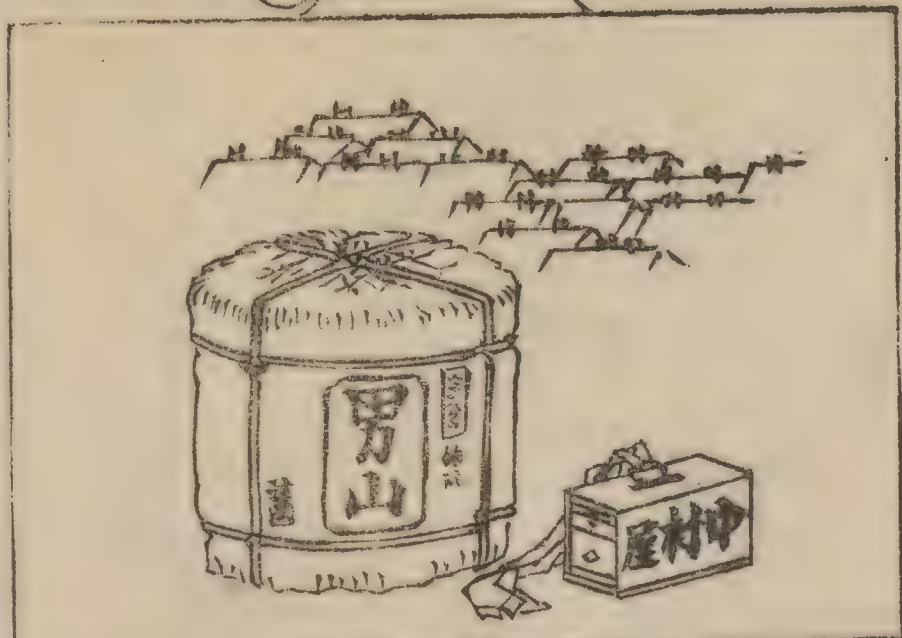
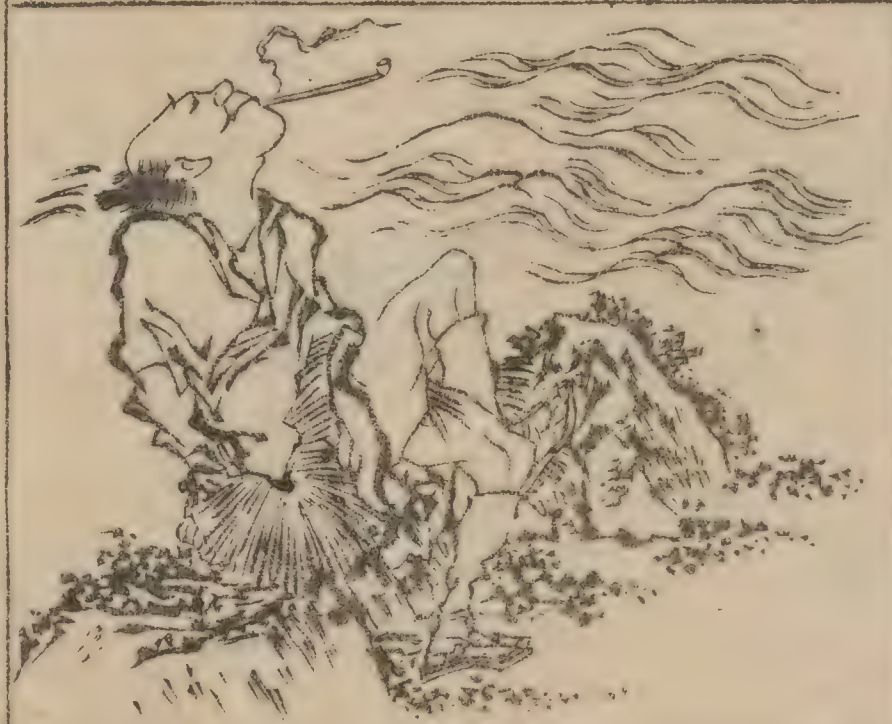
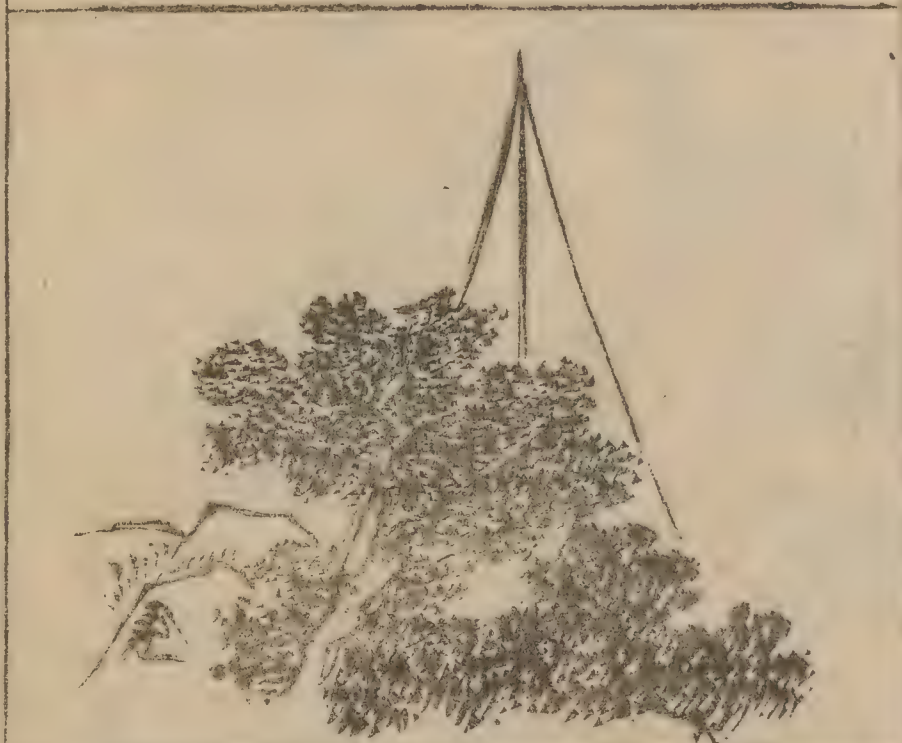


柳絲飛絮

柳絲飛絮

廿四









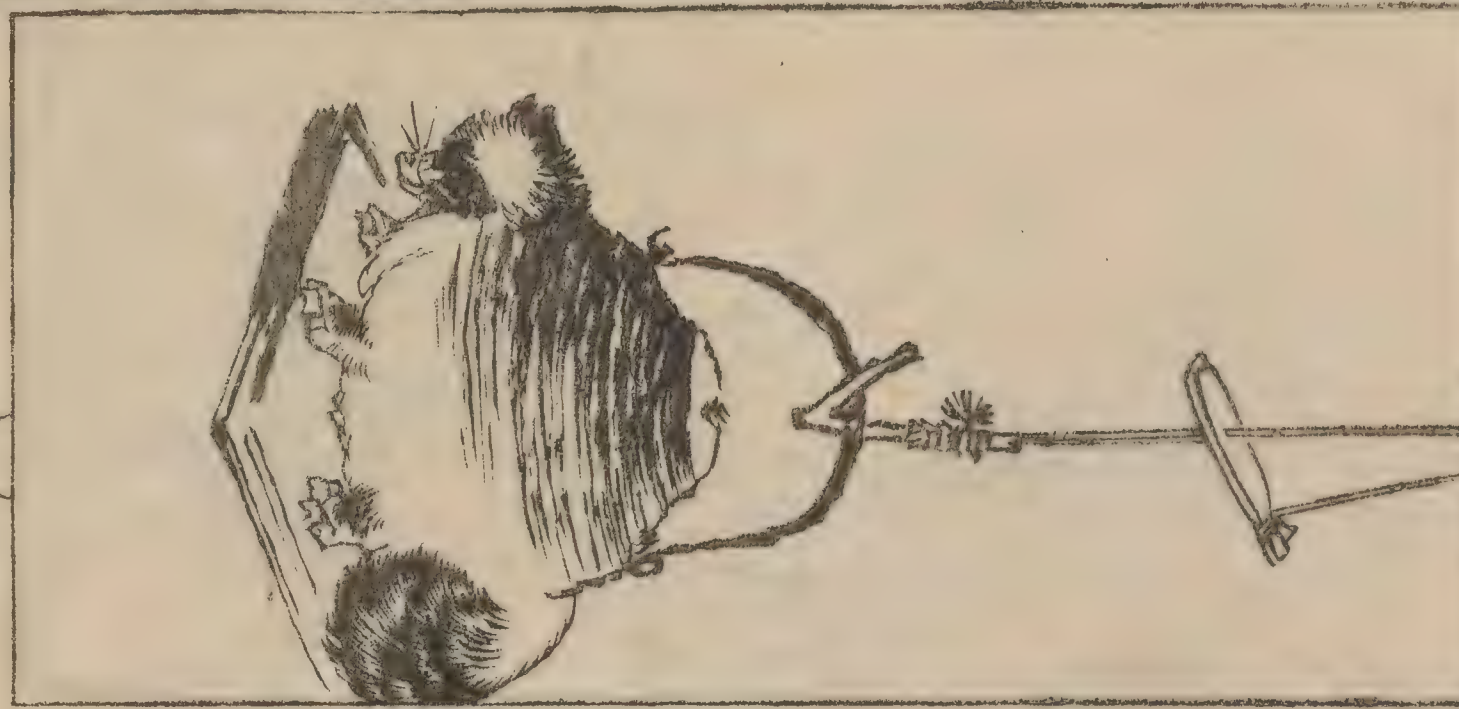
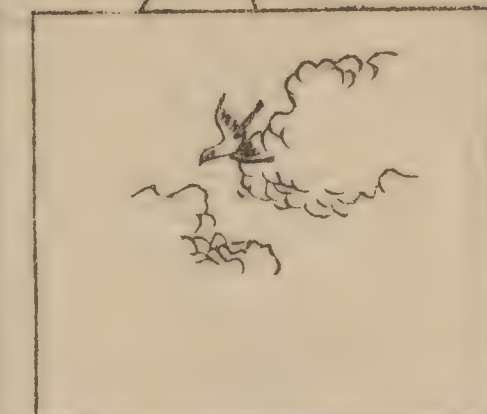


新編  
 日本書紀  
 卷之九

新編  
 日本書紀  
 卷之九

新編  
 日本書紀  
 卷之九

月ねんる  
 むき  
 こ

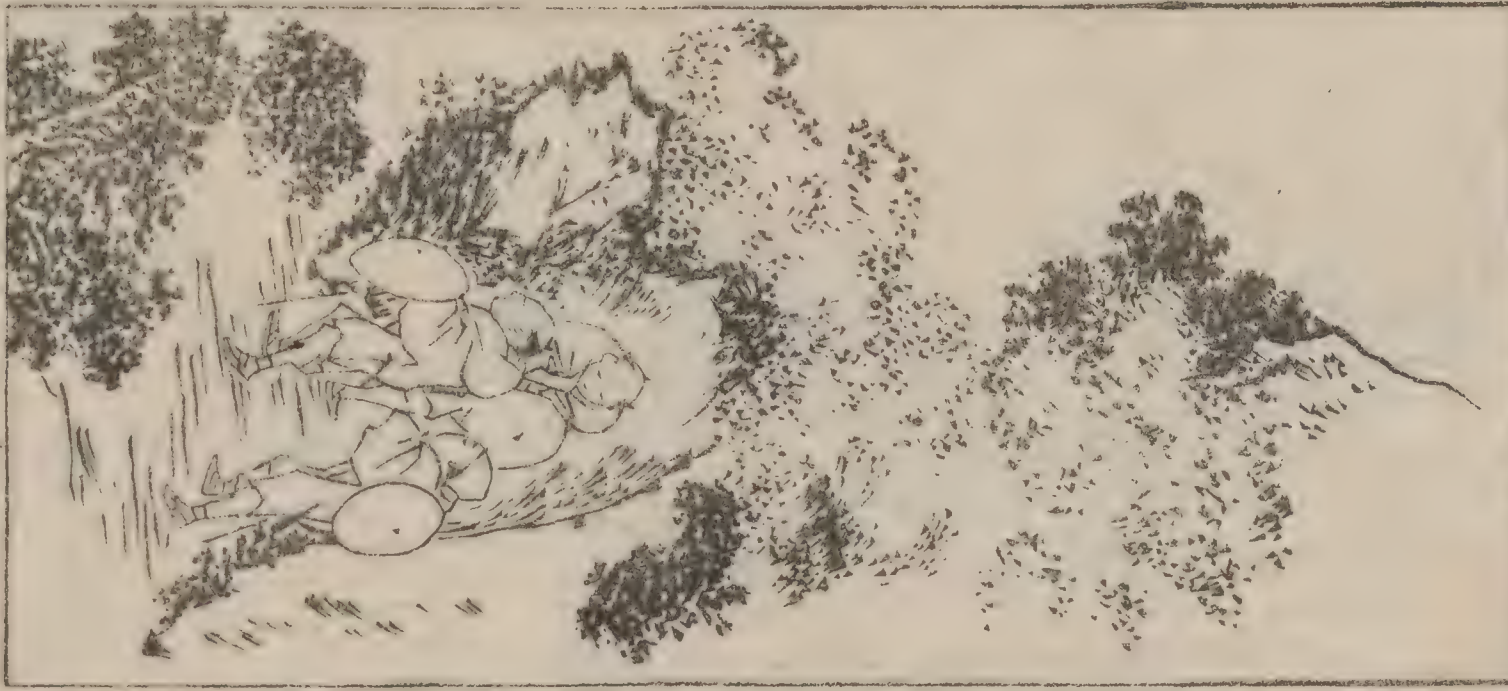


北へなり

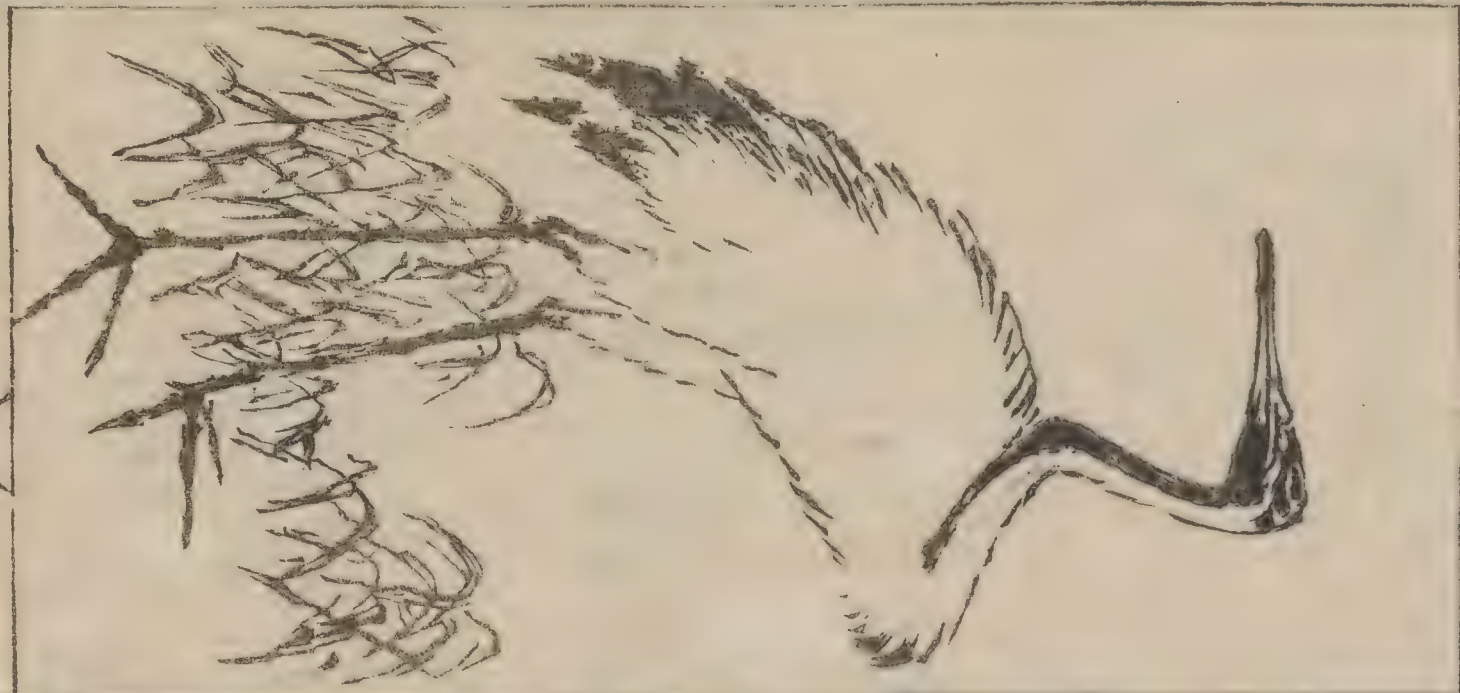
新編  
 日本書紀  
 卷之九



れあぐ



日

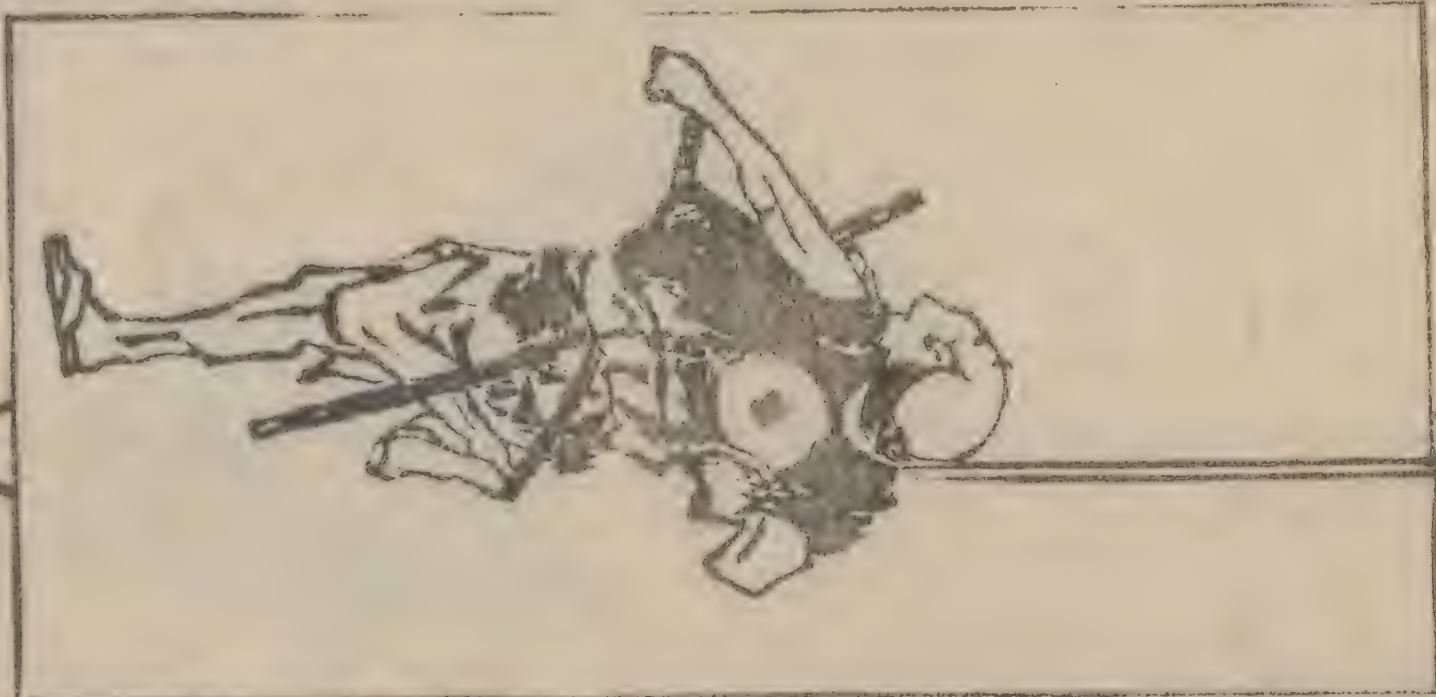








金部



れり。

此へ



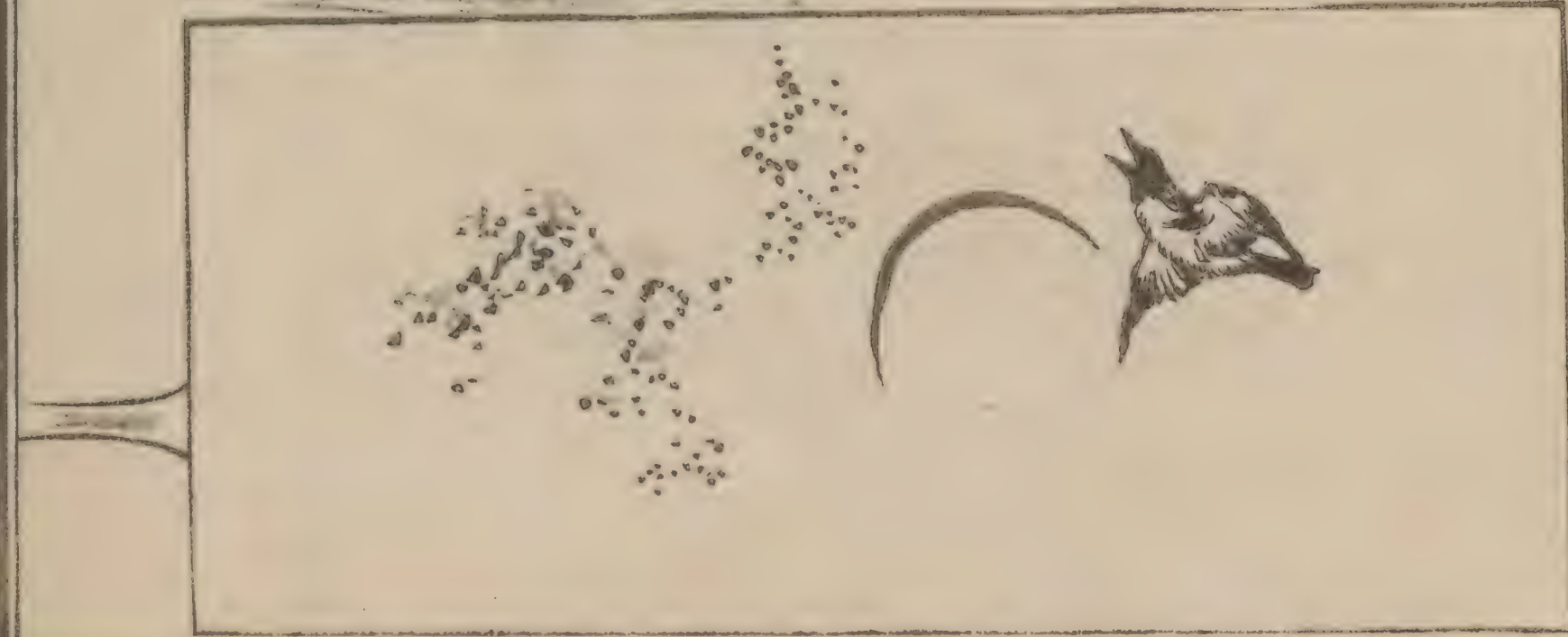


柳  
名  
金  
之  
部

金  
之  
部

三  
五

花  
名



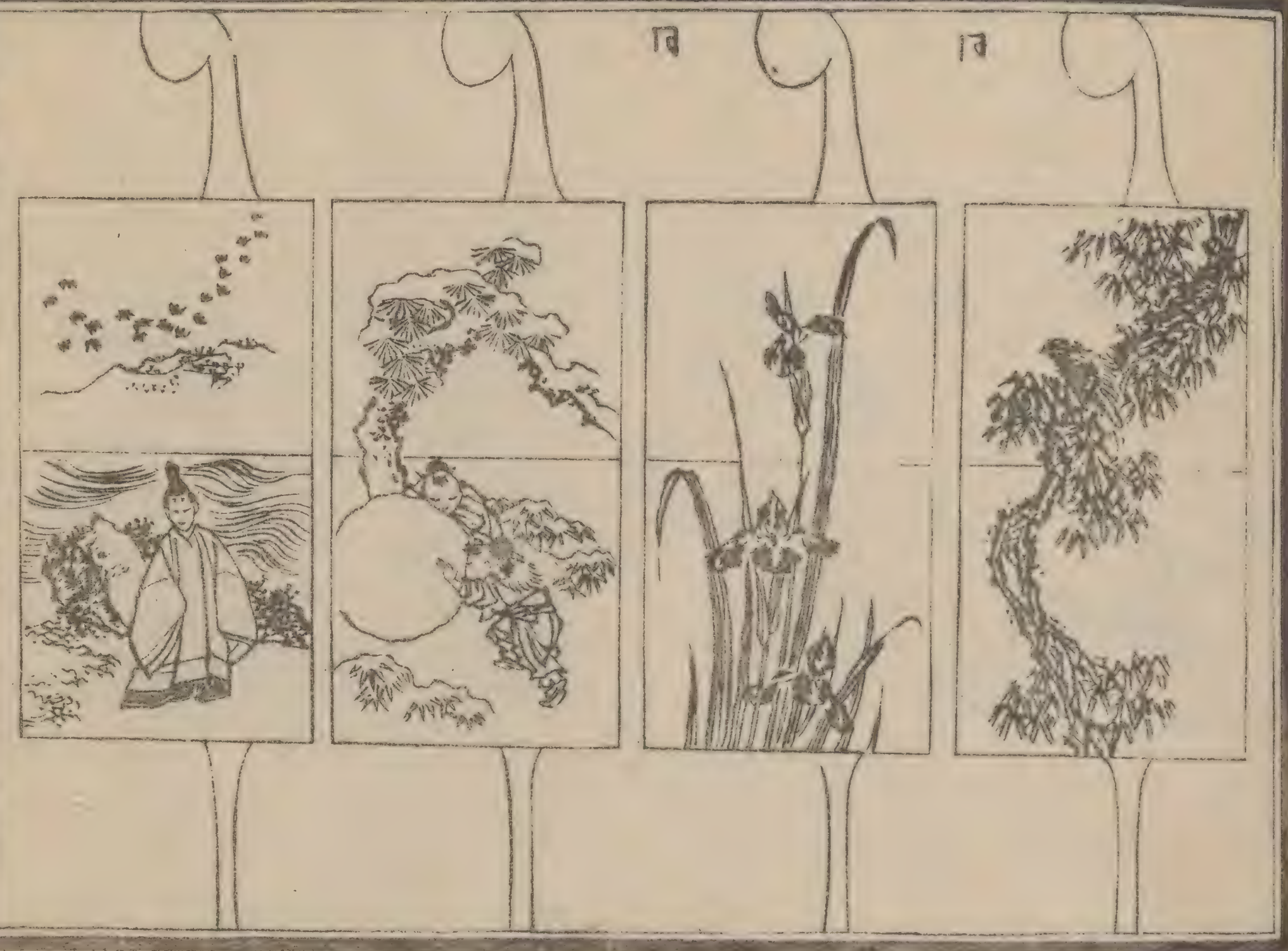
花  
名

柳  
名

金  
之  
部

三  
五













ふとんさき

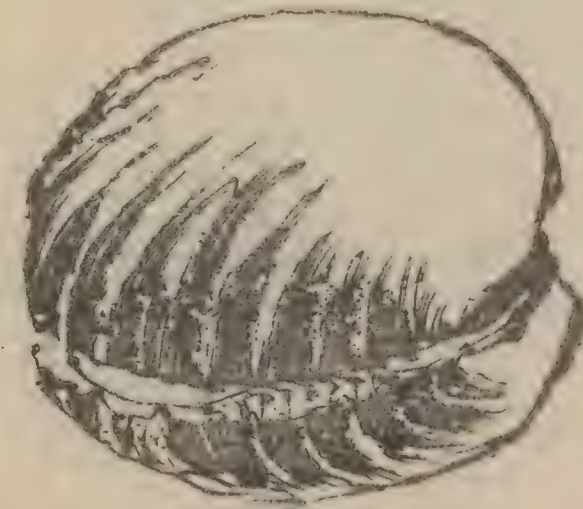
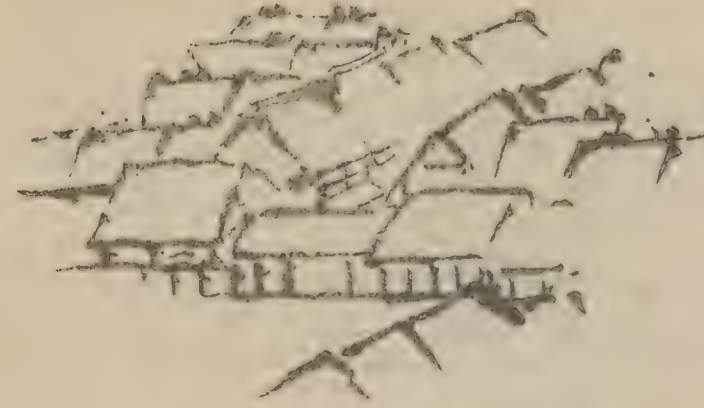




たろく

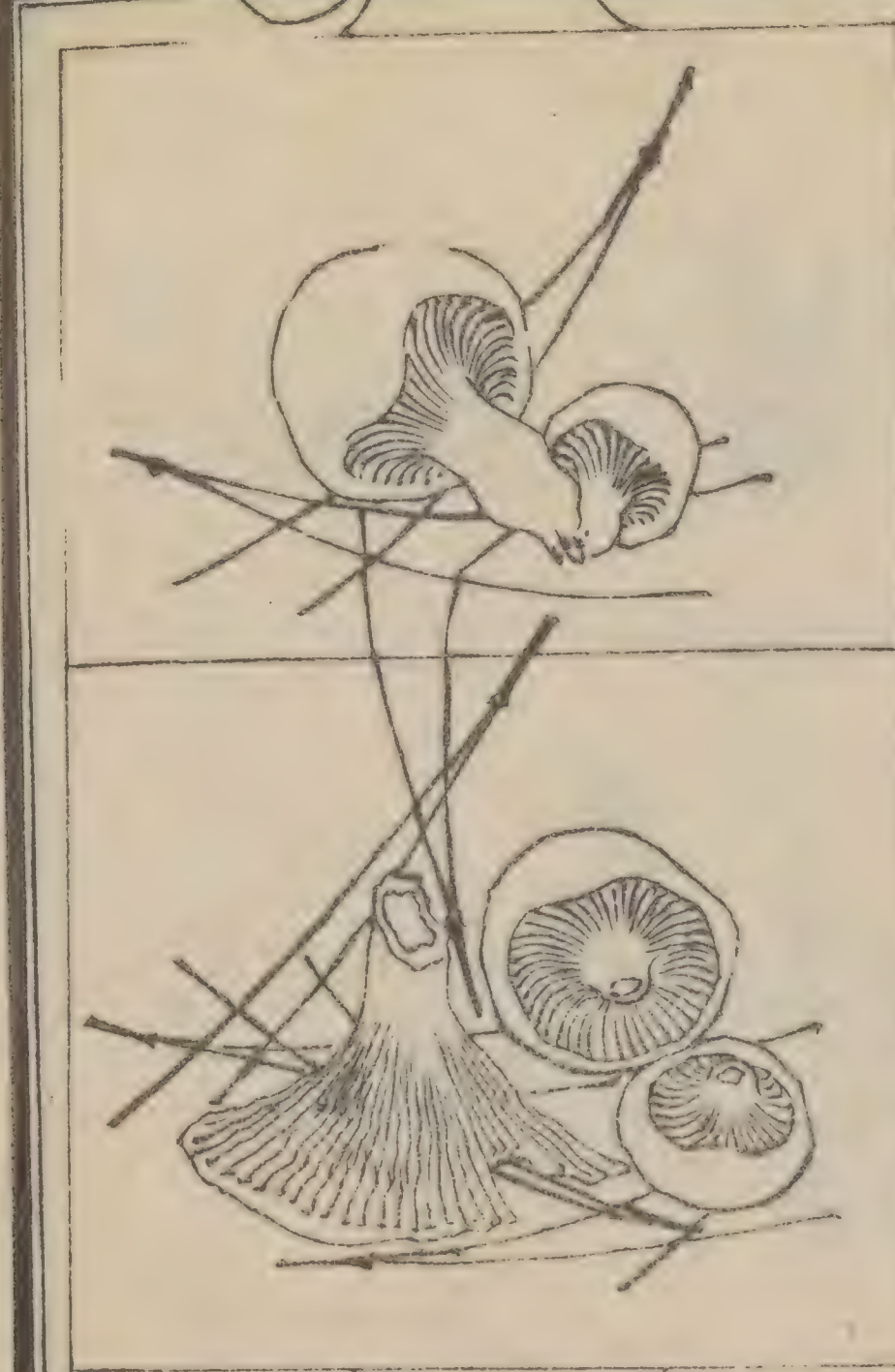


ふとむし





四



れま





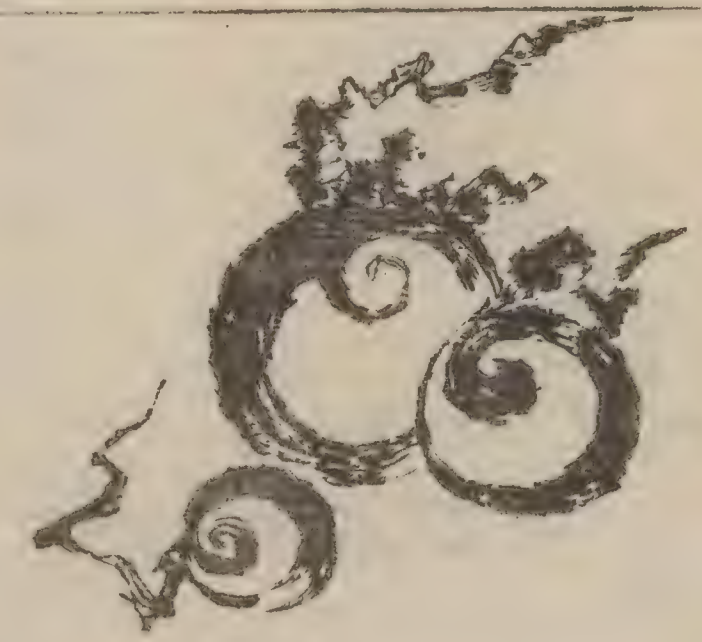
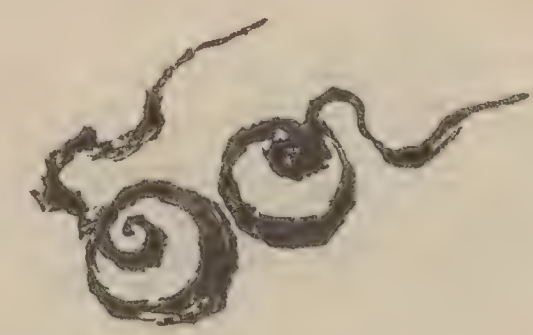


あまのり

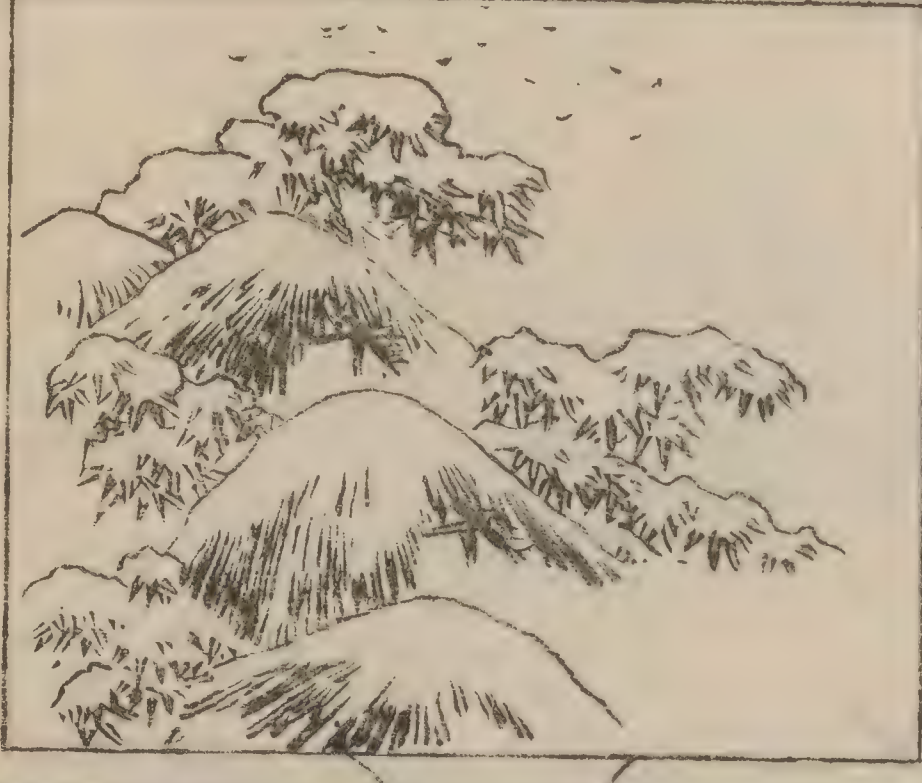




四

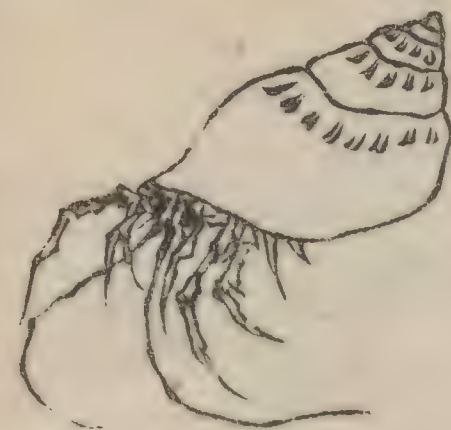
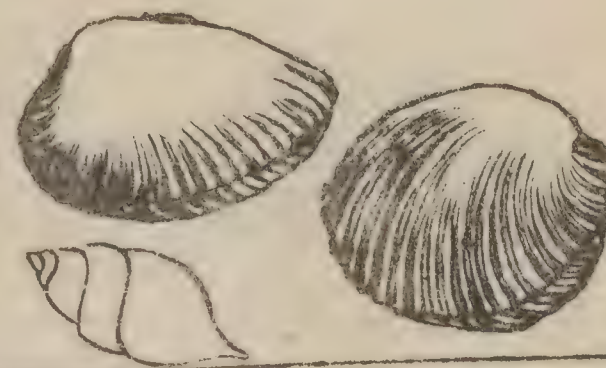


ふとむり





水あぶく



17







おんきなをこれ  
あまのづのどろ  
するも  
おのゝを  
さうて  
さみふ  
うを  
か  
は  
さう  
さう

牀上者雲鶴  
林間僻蟄蟲  
清閑談玄夜  
愛此樂無窮  
烟草詩屎齋









前北齋為一先生画圖

雕五

江川留吉

東都書林永壽堂藏板目錄

為一先醒肉筆画帖

是板に彫る物より前北齋為一先生の内筆あり、遠國の人といへども、画帖とて求むる先生にはふあはれ

為一先醒雞肋画譜

此書、文政二年の頃より見聞せる所、風俗禽獸草木器財及び天文地理等、古来より庸画工の筆と下りたる紙画に綴り編を述ぐれば

富嶽八體

四季晴雨風雪霧天七造化に随ひ景色の異と筆端に著

百槁一覽

一枚摺

都下村里の槁地理の宜に随ひ製作乃各異なる画き又山水と画く助けとなる

画圖風雨霜雪編

山水草木人物禽獸風雨霜雪の趣、強弱輕重乃意味と具ふ

一覽百宮室 一枚摺

文政六年癸未夏五月

麴町平河町二丁目

衆星閣 角丸屋甚助

東都書林

馬喰町二丁目角

永壽堂 西村屋與八



